

令和2年度 授業改善推進プラン <音楽科>

大田区立大森第十中学校

○音楽科における令和元年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

■成果

- ・考えを発表する場を多く設け、他者の意見を聞くことにより、多様な音楽表現を身に付けることができた。また、鑑賞においては感じ取ったことを言葉で表す能力の向上が見られた。
- ・表現活動においては、音楽の基礎知識の問題を家庭学習で行うことにより、生徒が自ら曲想に合わせた表現の工夫をすることができた。

■課題

- ・音楽に苦手意識のある生徒のやる気を引き出す必要がある。
- ・生徒の技能の習得度や、音楽を聴きとる能力に差があるため、個に応じた指導の工夫が必要である。
- ・授業での学びを生活の中にある音楽と関連づけて、楽しみ、実生活に生かす能力の育成が必要である。

○音楽科における観点別の分析

■「音楽への関心・意欲・態度」

- ・楽曲の背景を学ぶことにより、興味をもって歌唱を行うことができた。
- ・歌唱、器楽、創作、鑑賞の履修内容ごとの得意不得意によって学習意欲に偏りがある。

■「音楽表現の創意工夫」

- ・楽譜に書いてある音楽記号を、曲想に合わせて表現することはできるが、作曲者の意図や思いをくみ取り、工夫することができる生徒が少ない。また自分の考えた音楽表現を、発表することができない。

■「音楽表現の技能」

- ・段階別のワークシートの使用により生徒のつまづきを可視化しているため、個別指導は充実させることができているが、苦手意識による練習量の差を感じる。表現が苦手な生徒への興味を引き立たせる工夫が必要である。
- ・階名を読める生徒が少ない。

■「鑑賞」

- ・楽曲に興味を持って、感じたことを言葉で表すことができる生徒が多い一方、書くことが苦手な生徒に対する手立てが必要である。
- ・楽曲から音楽の要素とそれらが生み出す曲想を感じ取ることはできるが、授業での学びを日常生活の中から見つけ、楽しむことができない。

○分析に基づいた授業改善のポイント

1 興味を引き立たせる導入の工夫

→ 生徒自らが学習に興味をもち、知りたい、歌いたい、聞きたいと思えるように、ICT機器を使用し生徒の生活と関連させた分かりやすい導入を行うことで、関心・意欲を持たせる。また、鑑賞の活動の際、イメージを絵で描かせるなどの言葉以外の表現方法を工夫し、書くことが苦手な生徒の手立てをおこなう。

2 生徒たち同士で教え合う、主体的な活動の充実

→ 器楽の学習や鑑賞する学習は、生徒の習熟度、感じたことを言葉にする能力に差があるため、生徒達で教え合い、話し合う時間を設けることで、深い学びの場をつくる。

また、小テスト等で生徒の習熟度を適切に把握し、個に合わせた指導をおこなう。

3 学ぶことで得る力を提示し、学びを次の学習に生かす能力の育成

→ 毎回の授業で学ぶ内容の理解と共に学ぶことで、何ができるようになるかを、生徒に伝えることで、意欲を持たせる。また、鑑賞などにより、感じたことや学んだことを表現の活動に生かすための工夫を行う。

○音楽科の授業改善策

1 学年

- ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。また、基礎的な表現の技能を身に付けさせる。
- ・話し合いの場を多く設け、対話的な活動を行うことで、他者の意見を取り入れ、学習をより深いものにする。

2 学年

- ・多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、創意工夫して表現する能力を育てる。また曲種に応じた発声や言葉の特性を理解してそれらを生かせる表現力を身に付けさせる。
- ・1年次の学習を生かすために、教材の工夫を行い学習のつながりを意識させる。

3 学年

- ・基礎・基本の再確認を行い、知識、技能を生かし生活の中で楽しむ能力を育てる。
- ・表現活動の際は、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫させる。また、生徒同士で意見を出し合い協力することで、他人と協働する難しさ、楽しさを学び、生活に生かす能力を身に付けさせる。